

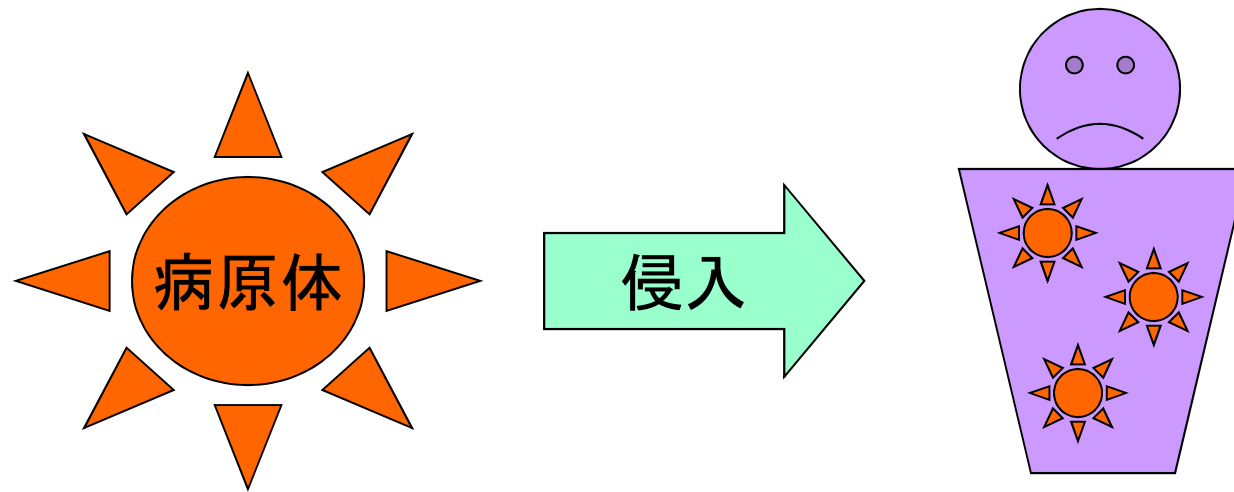
＜感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止＞
感染対策の基礎知識と具体策

～感染症と感染経路～

この研修の目的

- 介護職にとって「感染症は身近にあるもの」という意識を高める。
- 感染予防・対策の重要性を理解する。
- 生活の場(＝介護現場)での感染に関する正しい知識を学ぶ。
- 介護施設でみられる感染症の特性の理解をする。

そもそも感染症とは・・・？



「病気を起こす力を持った微生物」(病原体)が
体内に侵入して引き起こす病気

聞いたことありませんか？

＜病原体の例＞

ウィルス ⇒ インフルエンザ、ノロ

細菌 ⇒ 腸管出血性大腸菌0-157

真菌(カビ) ⇒ カンジダ菌、白癬菌

寄生虫 ⇒ ヒゼンダニ

…など

このような病原体を保有し、感染を拡大させる
ことが可能なものを「感染源」と呼ぶ

介護職の身近にある感染源

- ① 便、尿、嘔吐物、血液、体液などが付着しているもの
 - ⇒ 衣類、寝具、オムツ、マスクなど
- ② ケアで使用した器具
 - ⇒ 爪切り、注射針、ガーゼなど
- ③ 手洗い、消毒をせずに取り扱った食品

身近に存在する病原菌

- 黄色ブドウ球菌
 - ⇒ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）
- 緑膿菌
 - ⇒ 多剤耐性緑膿菌（MDRP）

健康な人に感染することは少ないが、抵抗力の弱い高齢者は感染しやすい
薬剤に耐性を持つようになった菌を薬剤耐性菌（多剤耐性菌）と呼ぶ

集団感染に注意！

- インフルエンザ（インフルエンザウィルス）
- 結核（結核菌）
- 感染性胃腸炎（ノロ、ロタなど）
- 腸管出血性大腸菌感染症（O-157など）
- ノルウェー疥癬（ヒゼンダニ）

入居者だけでなく、職員の感染にも注意！

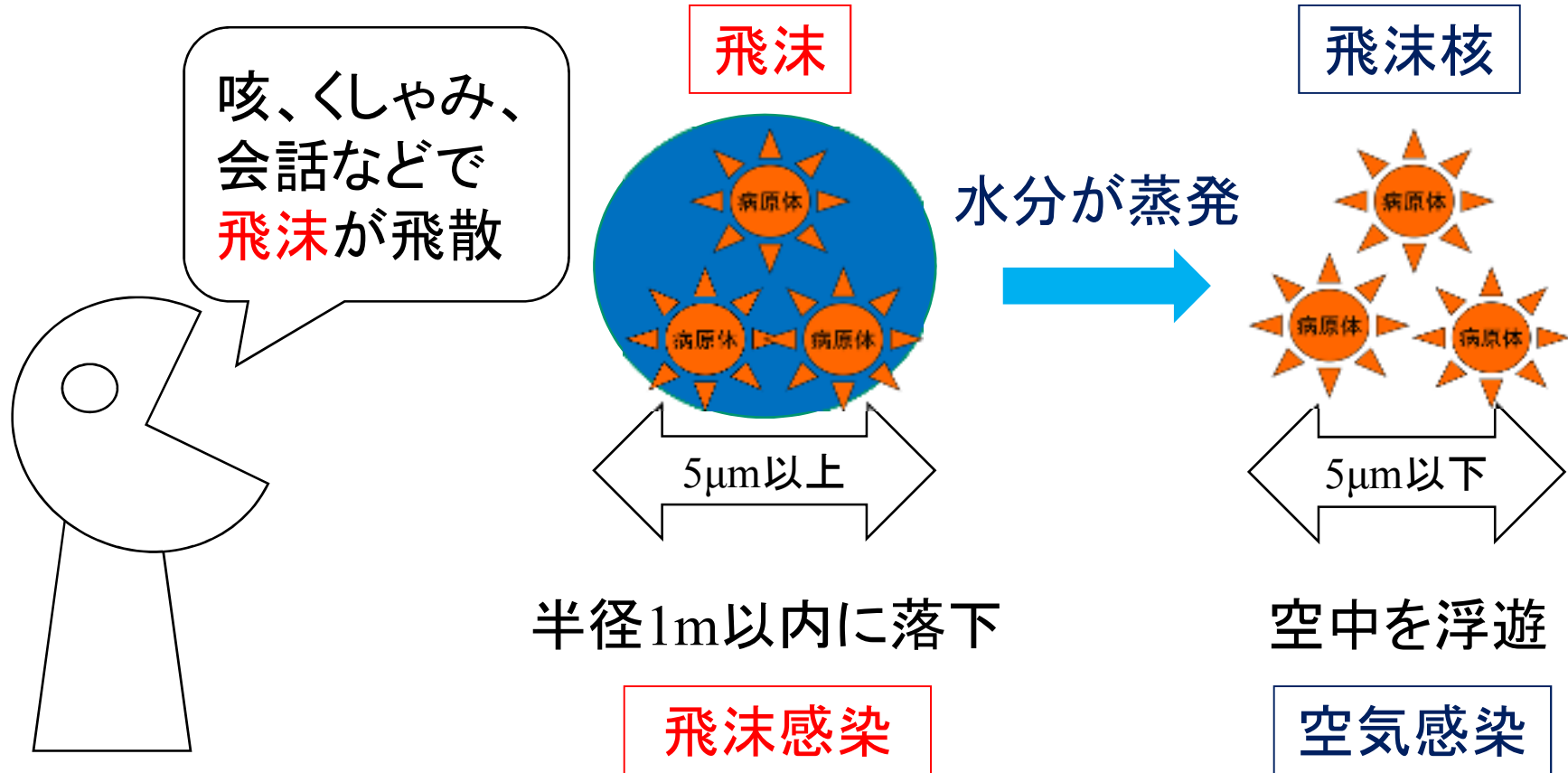
⇒ 職員が感染源となり集団感染を引き起こす
場合もある！

感染症の感染経路

- ① 空気感染
- ② 飛沫感染
- ③ 接触感染（経口感染含む）
- ④ 血液媒介感染 などがある

感染症予防には、**感染経路に応じた適切な対策**をとることが大切

感染予防の予備知識 ＜「飛沫」と「飛沫核」＞



感染予防の予備知識

<感染経路と病原体>

感染経路	病原体
空気感染	結核菌、麻疹ウイルス、 水痘・帯状疱疹ウイルス …など
飛沫感染	インフルエンザ、風疹ウイルス、 ムンプスウイルス、レジオネラ菌 …など
接触感染 (経口感染含む)	ノロウイルス、腸管出血性大腸菌O-157 MRSA、MDRP、ヒゼンダニ …など
血液媒介感染	B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス ヒト免疫不全ウイルス (HIV) …など

感染症の感染経路と予防策

① 空気感染

【空気感染の対策が必要な病原体】

⇒ 結核菌、麻疹ウイルス、
水痘・带状疱疹ウイルスなど

※ ノロウイルスは、乾燥した吐物から空気中に浮遊し、空気感染することもある

- ・ 咳やくしゃみなどで飛散した飛沫核を吸い込むことにより感染する
- ・ 飛沫核は空中に浮遊し続け、空気の流れにより飛散する

感染経路と予防策

① 空気感染

【感染予防策】

- ・ 感染者は入院による治療が必要
- ・ 病院に移送するまでの間は、原則として個室管理
- ・ 介護時には高性能マスク (N95など) を着用
- ・ 免疫のない職員は患者との接触をさける

感染症の感染経路と予防策

② 飛沫感染

【飛沫感染の対策が必要な病原体】

⇒ インフルエンザウイルス、風疹ウイルス、レジオネラ菌、ムンプスウイルスなど

※ムンプスウイルスは流行性耳下腺炎（おたふく風邪）の病原体

- ・ 咳やくしゃみ、会話などで飛散した飛沫粒子を吸い込むことにより感染する
- ・ 飛沫粒子は半径1m以内に落下し、空中に浮遊し続けることはない

感染症の感染経路と予防策

② 飛沫感染

【感染予防策】

- ・ 感染者は原則として個室管理（同病者の集団隔離とする場合もある）
- ・ 感染者を隔離管理できない時は、同室者のベッドと間隔を2m以上離す
- ・ 介護時にはマスクを着用
- ・ うがいを励行する

居室のドアは開けたままでも構わない

感染症の感染経路と予防策

③ 接触感染（経口感染含む）

【接触感染の対策が必要な感染症】

⇒ ノロウイルス、腸管出血性大腸菌0-157、
MRSA、MDRP、ヒゼンダニなど

- 手指、食品、器具を介して感染する頻度が高い
- 汚染物（嘔吐物、排泄物、分泌物など）との接触
で感染が拡大していく

感染症の感染経路と予防策

③ 接触感染（経口感染含む）

【感染予防策】

- ・感染者は原則として個室管理（同病者の集団隔離とする場合もある）
- ・介護時は手袋を着用、汚染物に触れたら都度交換
- ・手洗いの励行と適宜手指消毒
- ・可能な限り個人専用の器具を使用
- ・汚染物との接触が予想される時にはガウンを着用
※ガウンを脱いだ後は、衣服が環境表面や物品に触れないよう注意

④ 血液媒介感染

- ウィルス性肝炎
(B型肝炎ウィルス、C型肝炎ウィルス)
- 後天性免疫不全症候群 (AIDS)
(ヒト免疫不全ウィルス : HIV)

ただし、通常の集団生活では、人から人へ感染する可能性は低い

感染経路を遮断するために

スタンダードプリコーション（標準予防策）
を徹底すること！

お疲れ様でした。

参考文献

厚生労働省ホームページ

「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」

<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/tp0628-1/>

(2018年6月閲覧)

【教材作成】

社会福祉法人創誠会

特別養護老人ホーム あかり

施設長 渡邊尚太